

平成31年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

蒲刈中学校区 校番 24 学校名 呉市立蒲刈中学校

a 学校教育目標	未来を拓く生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉(学校の使命) 小規模校の良さを生かしグローバル社会で活躍できる生徒の育成 〈ビジョン〉(将来の学校像) 地域創生の核となる学校
----------	------------	----------------------	--

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	○学力の向上を目指して、確実な知識・技能を習得させるとともに「教えて考えさせる授業」の充実を図り授業の中で課題解決に向けた活用場面を積極的に作り出す。 ○ふるさと学習や小中一貫教育の推進を通して、多くの人の生き方に触れさせ、自分に自信と誇りを持ち、自ら課題を見つけ、進んで学び活動できる生徒を育成する。
------------------------------	--

育成を目指す資質・能力	『知識・技能』『思考力・判断力・表現力』『自己の生き方を考える力』『協働的に関わる力』
-------------	---

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・3 年目)						自己評価						
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	(10)月			2月			
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価	
*** 変化に対応して挑戦でき、「深く」「先を見て」考え行動する生徒を育てる		知識・技能の確実な定着 ★確実に定着させた学習内容を活用し、困難や変化を多面的にとらえ、解決しようとする生徒の育成	○「教えて考えさせる授業」による活用場面の授業展開への位置付け	・振り返りシートでの生徒の肯定的評価の割合	100%							
			○「調べる」「説明する」「振り返る」学習を意図的に設定する									
			○予習を大切に家庭学習の励行と自主学習の質的向上を図る	・ドリル学習の漢字・英単語強化週間でのテスト結果が全体を通して上昇した生徒の割合	100%							
			○宿題提出率100%やドリル学習等による基礎・基本の確実な定着									
** 地域を愛し協働して貢献でき、夢を抱き夢への道を拓く生徒		自己の生き方を考える力の育成 ★夢を持ち、夢を語り、志高く自己の生き方を考え、地道によりよく生きるための努力をする生徒の育成	○学力つくりのためのサーキットトレーニング等の習慣化	・体力測定での記録が向上した生徒の割合	男100% 女100%							
			○学び合い、教え合う活動による相互向上の意欲の育成	・生徒アンケートの肯定的評価の割合	90%							
			○読書活動やNIE教育の充実	・読書冊数1人月3冊以上読む生徒の割合	90%							
* 働き方改革の視点で業務改善を行う		協働的に関わる力の育成 ★地域や仲間を愛し、相手の気持ちを尊重して協働し、積極的に貢献しようとする生徒の育成	○学校図書館やICTの積極的な授業での活用									
			○立志式、職場体験を核にして将来を考えるキャリア教育の展開	・生徒の表現活動についての地域・保護者アンケートの肯定的評価の割合	90%							
			○多様な生き様に触れ自己の生き方を考える「未来を拓く100のであい」									
			○挨拶・返事・靴揃え、5分前行動、掃除、後片付けの徹底	・生徒アンケートの肯定的評価の割合	100%							
* 働き方改革の視点で業務改善を行う		協働的に関わる力の育成 ★地域や仲間を愛し、相手の気持ちを尊重して協働し、積極的に貢献しようとする生徒の育成	○地域資源の活用による異なる価値観のとののであい									
			○「ふるさと学習」の充実とエリア展開による郷土愛の育成	・学習や活動後の生徒アンケートの肯定的評価の割合	100%							
			○生徒会活動を中心にした生徒の自主的活動の奨励									
* 働き方改革の視点で業務改善を行う		協働的に関わる力の育成 ★地域や仲間を愛し、相手の気持ちを尊重して協働し、積極的に貢献しようとする生徒の育成	○小中一貫教育のなかでの生徒の自尊感情、自己有用感の育成	・生徒会活動や地域活動への積極的参加の割合	100%							
			○地域ボランティア等地域活動への参加の奨励									
* 働き方改革の視点で業務改善を行う		組織的な協働による効率的な仕事分担	○分掌・学年等で協働し、各自の得意分野を中心に効率のよい手法を伝えることによって業務改善を行う	・分掌・学年等で助け合うことで全体的として業務改善ができていていると感じる職員の割合	100%							
			○分掌・学年等で協働し、各自の得意分野を中心に効率のよい手法を伝えることによって業務改善を行う									

【k: 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60